

SENKO

CSR REPORT

2015

 環境・安全・社会への取り組み

国内外から信頼される、流通情報企業へ。

2016年 創業100周年

最優良事業者として、「モーダルシフト大賞」受賞
センコー技能コンテスト「チャンピオンシップ」
「健康経営」を支えるセンコー健やか活動
センコー流「農業ビジネス」



MOVING GLOBAL

物流を超える、 世界を動かす、 ビジネスを変える。

Contents

ごあいさつ	代表取締役社長 福田 泰久	02
事業概要		03
特集	グリーン物流の推進	05
	安全活動	07
	従業員とともに	09
	地域との共生	11
経営とCSR	経営目標とCSR方針	13
	コーポレート・ガバナンスとコンプライアンス	15
環境報告	環境方針	17
	環境影響の全体像	18
	環境目標と成果	19
	車両・船舶への取り組み	20
	物流施設・事務所での取り組み	21
	物流サービスでの取り組み	22
安全報告	安全方針	23
	安全管理の取り組み	24
	安全教育・技能向上の取り組み	25
	安全活動の評価・達成状況	27
社会報告	お客様とともに	28
	従業員とともに	29
	社会とともに	33

■編集方針および報告の範囲

センコーは、2005年度から3回「環境・安全報告書」を発行してきました。2008年度からCSR推進委員会を設置し、従来から経営の重要事項と位置づけていた「環境保全」「交通安全対策」を含めたCSR活動の取り組み領域を明確にしたことを契機に「CSR報告書」として発行しています。

編集方針は次の通りです。

- (1) センコーの 特徴的な CSR 活動を「特集」として紹介しています。
- (2) 記載対象範囲は、センコー(株)ならびにグループ会社の活動も含みます。
- (3) 記載対象期間は、2014年4月～2015年3月までの事業活動ですが、一部2015年4月以降のものも掲載しています。
- (4) 環境の報告は、環境省の「環境報告ガイドライン(2012年版)」を参考にしています。



このマークの掲載されている箇所は過去の取り組みの成果や進捗などを継続的に報告しています。

ごあいさつ

「信頼される流通情報企業」を目指して

物流業界では、労働力不足、トラック不足が顕著となる中、将来にわたって物流機能を安定的に供給するために、国土交通省をはじめ物流業界団体でもさまざまな対策が講じられています。その中でモーダルシフトの推進、女性や高齢者が就業しやすい職場環境の整備や共同配送などのオペレーションの合理化などが推進されています。

このような環境の中、センコーグループはCSR活動として、より一層、ステークホルダーの皆様から信頼される企業を目指し、コンプライアンスを重視した「環境対応」「安全活動」「健康活動」の3つを柱と位置づけ、取り組んでまいりました。

環境対応では、「第5期環境マスタープラン」に基づき、物流センターの屋根を利用した太陽光発電など環境配慮型設備の導入による省エネルギー活動に取り組み、特に産業廃棄物排出量の削減や有価物リサイクル量の向上ではそれぞれ目標を上回る成果をあげるなど、積極的に活動を推進してまいりました。

安全活動では、「安全最優先」を事業経営の基本として、車両事故、労働災害の撲滅に向けた管理体制の強化や、リスクアセスメント活動の推進などをグループ全体に展開してまいりました。

また健康活動では、事業活動を支える従業員の健康づくり促進を目的とした職場環境の整備や、個人の健康管理意識を高めるセルフケアの推進により、健康企業の実現に向けて取り組んでまいりました。

今後も、センコーグループは事業活動を通じてCSR活動に取り組み、グループにかかわるすべてのステークホルダーの皆様から「信頼される流通情報企業」として評価していただけるよう、グループ一丸となって取り組んでまいります。

センコー株式会社
代表取締役社長
CSR推進委員会委員長

福田 泰久



国内外から信頼される、流通情報企業へ

流通情報企業としてSCM*を支援・実現するために、ITを駆使したシステムで最適な流通ソリューションを提供。物流を超える、世界を動かす、ビジネスを変える、そして社会の発展に寄与する事業を展開しています。

*SCM(サプライチェーン・マネジメント):ビジネスプロセスの全体最適を目指す戦略的な手法・IT情報システム

センコーの主要事業



流通ロジスティクス事業

量販店や百貨店、専門店など、小売店向けの物流サービスを行う事業です。GMS(総合スーパーマーケット)をはじめ、ホームセンター、ディスカウントストア、ドラッグストア、アパレルチェーン、通販など、さまざまな流通業界の企業のほか、食品や機械メーカーの物流も引き受けています。




住宅物流事業

住宅メーカーの製品を工場から建設現場へ輸送するサービスや、住宅資材メーカーの資材輸送などの物流サービスを行う事業です。大手プレハブ住宅メーカーをはじめ、壁材や床材から、窓枠、キッチンなど、さまざまな住宅資材メーカーと取り引きを行っています。




ケミカル物流事業

プラスチックなどの原料となる樹脂やプラスチック成型品、加工品、自動車や機械に使われる潤滑油などの物流サービスを行う事業です。センコーはケミカルメーカーの物流を創業時から行っており、長年のノウハウを活かして、ケミカル物流事業を拡大しています。




商事・貿易事業

商事販売、石油販売、貿易などを行う事業です。物流機器・資材、石油カードを利用した燃料の販売など物流に関する商材を販売するほか、日用品、包装資材、酒類などの卸売りを行っています。また、お客様の商材の輸出入、通関、国際間輸送まで一貫した貿易事業も行っています。



国内拠点

新たな大型物流センターを開設し、物流サービスを拡充

- センコー本社
- 主な支店、グループ会社



守山PDセンター3号倉庫 (2014年6月稼働)



北関東PDセンター (2014年7月稼働)



名古屋第2PDセンター (2014年10月稼働)

会社概要

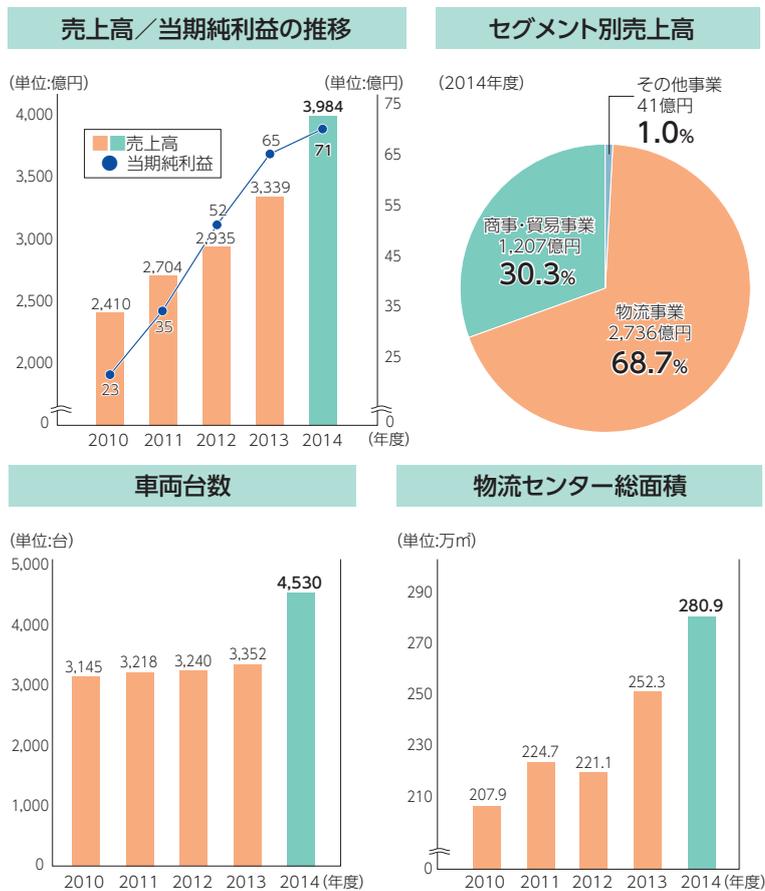
商号	センコー株式会社 (SENKO Co.,Ltd.)
資本金	23,098百万円
創業	1916(大正5)年9月
設立	1946(昭和21)年7月
本社	〒531-6115 大阪市北区大淀中1丁目1番30号 TEL.06-6440-5155(代表)
代表者	代表取締役社長 福田 泰久
事業所	451カ所
グループ会社数	96社
従業員数	12,455名
車両	4,530台
支配船舶	18隻
物流センター	280.9万㎡
URL	http://www.senko.co.jp

2015年3月31日現在(グループ合計)

主要サービス

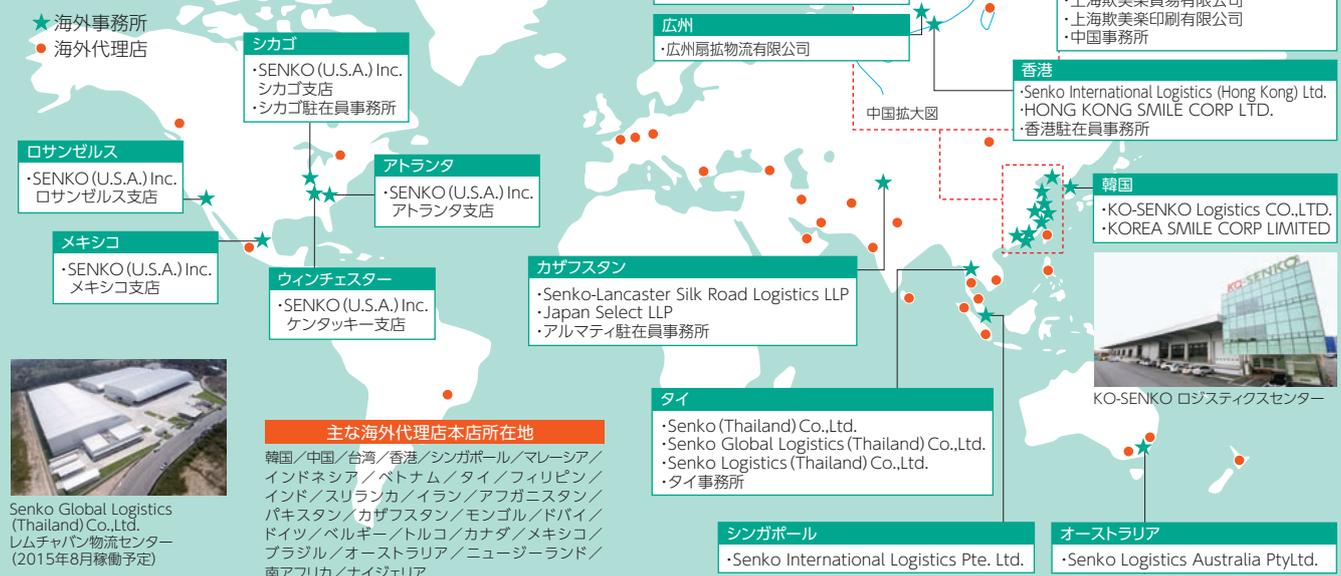
		(売上高構成比)
物流事業	流通ロジスティクス事業	33.9%
	住宅物流事業	15.7%
	ケミカル物流事業	12.4%
	その他物流事業	6.7%
商事・貿易事業		
その他事業		

センコーグループ事業データ(連結)



海外拠点

“世界”をネットワークする 国際物流事業をさらに拡大



特集

グリーン物流の推進

輸送を最適化し、環境への負荷を低減

最優良事業者として、 「モーダルシフト大賞」受賞

2015年3月、(社)日本物流団体連合会が新たに設けた「モーダルシフト取り組み優良事業者公表・表彰制度」の第1回最優良事業者賞(大賞)に、センコーのモーダルシフト事例が選出されました。

今後も独自の技術・物流ノウハウを活かし、業界を先駆けるグリーン物流をさらに進めていきます。

モーダルシフト取り組み優良事業者
一般社団法人 日本物流団体連合会



▲モーダルシフト取り組み優良事業者表彰式

輸送の大幅な効率化を実現した、 モーダルシフト3事例が高い評価

鉄道、船舶を組み合わせ、輸送を最適化する「モーダルシフト」は、輸送効率向上、CO₂排出量の低減だけでなく、物流業界で課題になっているドライバー不足にも対応する輸送システムとして、その推進が期待されています。当社はモーダルシフトに取り組み、お客様の物流を改善・革新する提案を積極的に行っています。今回の受賞は、以下3件の取り組みが高く評価されたものです。



事例1



ケミカル物流

荷主:ケミカルメーカー様

バルクコンテナを改良し、合成樹脂の輸送を鉄道輸送へシフト

これまでセミトレーラーを使って合成樹脂の輸送を行われていたお客様に対し、積載効率の高いバルクコンテナを使った鉄道輸送への転換を提案。当社独自のバルクコンテナを活用したサイロ・ツー・サイロの一貫物流を実現しました。積載量の増加で配送回数を削減し、輸送コスト、環境負荷がともに大幅に低減しています。



積載量を上げる専用コンテナ
まで作るのがセンコー流!

スゴ技!

汎用コンテナの上部にマンホールを取り付け、コンテナ上部から充填することで積載量を1t増!

お客様個々の設備条件に合わせて、
きめ細やかに対応

スゴ技!

お客様の受入サイロの配送管に適した接続法で、納入時の安全・品質を確保。

CO₂排出量削減効果

-76%

1,513.5t-CO₂/年削減



事例2 住宅物流 荷主:住宅資材メーカー様

積み替えを省いた「直送」、専用パレットの採用で輸送効率化

富山から鹿児島へ。住宅資材の輸送において、従来のトラック輸送では、福岡拠点での積み替えが発生していました。鉄道輸送の導入は、CO₂削減、ドライバー不足といった物流環境の変化に対応するもので、鹿児島への直送が可能になることで、大幅に輸送が効率化。住宅物流における当社のノウハウを活かし、輸送品質や積載効率の向上を図っています。

積載効率を一気に向上する、**センコー流ノウハウを発揮** **スゴ技!**

積載効率を高める統一パレット採用の提案、荷積み方法の工夫で輸送量を飛躍的にアップ。

住宅物流の豊富な実績が、**輸送品質を約束する!** **スゴ技!**

住宅物流の40年以上に渡る実績を活かし、振動を抑える養生を実施。これにより、破損事故ゼロを継続しています。



◀パレットを工夫し積載効率をアップ

CO₂排出量削減効果

-85%

239.7t-CO₂/年削減

事例3 流通ロジスティクス 荷主:酒類販売チェーン店様

センコーの物流センターを拠点に「混載集荷と輸送」を提案

酒類販売チェーン店様の全国の物流センターへ、従来は各酒造メーカー様が商品を直送していましたが、九州エリアでの混載集荷を当社が請負い、当社の物流センターに一旦集約。そこから全国8カ所のお客様の物流センターへ、各メーカーの商品を積み合わせたJRコンテナ輸送を提案し、輸送効率の改善を行いました。また、輸送品質を保つため断熱材入り12ftコンテナを採用しています。

混載物流用のパレット統一提案で**モーダルシフトを実現!** **スゴ技!**

福岡に集約拠点を開設。ITを駆使した情報管理、また集荷効率を高める「統一パレット」の提案など、混載集荷を可能にする先進かつ精緻な「物流オペレーション」を実施。

センコー流の積み付けで**積載率をほぼ100%に!** **スゴ技!**

効率の良い集荷、発送を実現するためにお客様、メーカー様への説明と交渉を実施。集荷、コンテナ輸送ともに積載重量はほぼ100%になっています。

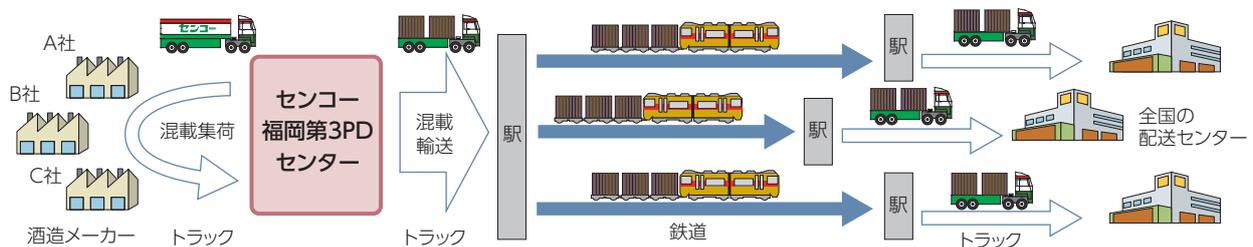


CO₂排出量削減効果

-83%

415.8t-CO₂/年削減

転換後



特集

安全活動

「安全・品質」を高め、世界に広げる

センコー技能コンテスト 「チャンピオンシップ」

2014年度は
グローバル
開催!!

2014年9月13～14日、センコー技能コンテスト「チャンピオンシップ2014」を研修施設「クレフィール湖東」で開催。

各地区の予選会を勝ち抜いた総勢88名が、日常業務で培った技術を競いました。

今回は海外拠点からも初めて参戦。“センコー流”の定着と安全品質向上を世界レベルで推進しています。

業界No.1の 安全品質・サービス向上を目指して

「センコー技能コンテスト」は創業90周年の記念イベントの一環として2006年から始め、今回で7回目を迎えました。全日本トラック協会主催の全国ドライバーコンテストの競技内容をベースに、法令以上の独自基準を定めた“センコー流”の行動・技術規範を審査項目に加えているのが特徴です。現場でのトレーニングと技能コンテストを通してグループ全体にセンコー流を浸透させ、また日常業務の課題を発見し、安全品質と現場力の強化を図ることを目的としています。

競技は、ドライバー部門(4t/11t/トレーラー)とオペレーター部門(リーチ/カウンター)、総合対応部門の計6部門。2014年度は、海上コンテナ輸送などで使用が増加するトレーラーの競技部門を新たに設けました。日常業務に即した技術を高め合う場とするため、開催ごとに内容を検討しバージョンアップを図っています。

海外でも、 センコー流を浸透、徹底させる

センコーが目指す「安全へのこだわり」の集約、それが“センコー流”です。安全運転トレーナー、リフト技能トレーナーが練り上げた統一規範は、センコーが誇る安全・品質であり、お客様からの高い信頼につながっています。

センコーはグローバルな物流サービスを加速させていますが、どの国においても日本と変わらない安全・品質を提供するのが物流企業の責任であり使命です。この考えに基づき2014年度は、中国とタイから現地採用の4名の選手が参加し、競技を通じて、安全品質の重要性や取り組み姿勢を学びました。今後も、安全意識と技能向上を徹底するために海外現地従業員の参加枠を拡大させる予定です。



▲タイからの応援団が見守る中で競技



▲センコー流の点検を実践

競い合うことでモチベーションを向上させ、現場力を高める

技能コンテスト(ドライバー部門、オペレーター部門)は、知識テスト、点検競技、走行競技の総得点を競います。現場の仲間と競い、能力を高め合う仕組みは従業員のモチベーションアップにも貢献しています。開催日(9月13~14日)は天候にも恵まれ、選手たちは日ごろ職場で培ってきた技能を披露。各職場から駆けつけた応援団の声援を受け、熱い闘いを繰り広げました。

ドライバー部門

4t部門/11t部門/トレーラー部門

走行競技では、安全操作および法規走行、コース走行、課題走行、運転態度、エコドライブなどを審査。バックスラローム走行(後退)、車庫入れなどの課題走行では、プロの卓越した技を披露。



オペレーター部門

リーチ部門/カウンター部門

法規で定められた箇所だけでなく、指差呼称など“センコー流”のノウハウを取り入れた点検方法の実践を採点。「日常的に疑いの心を持ちながら点検業務に臨む」重要性を認知させる内容になっています。



総合対応部門

CS、対応品質向上を目指して上司と部下の14組28名が参加。「電話対応」と「来客対応」の2場面を設定し、好感が持てる臨機応変な対応で、ビジネスをスムーズに進めることができるか競いました。



VOICE

中国、タイから、海外従業員が初参戦

中国からの参加者コメント

センコー流の精神を会社に広げたい

ドライバー部門
上海扇拡国際貨運
有限公司

倪士宏(にしほう)

3位
入賞!!



中国との違いは、発車前点検箇所が多いこと。それが安全上で重要だと実感しました。日本の点検方法や考え方を同僚にも教え、安全運営の目標を達成、事故ゼロの記録を継続していきたいと思えます。

自分の欠点を修正し会社とともに成長

オペレーター部門
上海扇拡国際貨運
有限公司

王青(おう ちん)

コンテストは、自分の欠点を見つけ修正する機会となりました。フォークリフトの正しい操作手順、日本で得た知識を職場で広め、安全な倉庫運営を実現します。参加のチャンスをいただき感謝しています。

タイからの参加者コメント

出場の経験を今後に生かす

ドライバー部門
Senko Logistics (Thailand)
Co.,Ltd.

スパシット・
パーンシンタム

会社の代表として、日本の選手と一緒にコンテストに参加でき、嬉しく思います。出場前はかなり練習し、運転技術の向上を実感しています。安全面、省燃費運転など、日本は品質レベルが高く、学ぶことは多いです。

ドライバー仲間の模範になりたい

ドライバー部門
Senko Logistics (Thailand)
Co.,Ltd.

ウイッサノ・
ホンチュンペー

コンテスト参加後は自分の仕事の質が上がったと感じます。チャンスくれた会社に恩返しするためにも、ドライバー仲間の模範になれるよう、どんなことも全力で取り組んでいきます。

特集

従業員とともに

会社の元気は従業員と家族の健康から!

「健康経営」を支えるセンコー

センコーグループは、従業員の健康こそが会社の成長につながるという「健康経営^{*}」の考え方を実践しています。中期経営計画でも「健康活動の推進」を重点テーマに掲げ、健やか活動の推進、看護職の積極採用をはじめ、従業員の健康を増進させる施策を展開しています。

※「健康経営」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。



▶ポスターやさまざまなツールで啓発



従業員と家族の健康を守る センコー流の健康管理

「会社の元気は従業員と家族の健康から!」。この考えのもと、全社的取り組みとして健康増進活動を2008年度から継続しています。

日常生活の中で、従業員1人ひとりが適度な運動、健全な食生活、禁煙、歯科保健活動などを行い、健康の保持増進と、生活習慣病などの疾病予防を図るのが「センコー健やか活動」です。センコーグループで働く全従業員、その家族も含めた活動とし、普段から健康を意識した生活、効果的な運動・身体活動を習慣づけられるよう、さまざまな働きかけを行っています。

健やか活動は、従業員個々の健康を守るとともに、健康障害による経営リスクも低減します。またドライバー、作業員の健康維持は、物流企業に求められる「安全管理」にも直結するため、取り組みをさらに強化していきます。

独自のポイント制度「SK」で 楽しく健康づくり

目標を持って、身近なことから、楽しみながら取り組んでいくのがセンコーの健やか活動です。「SK」という活動量をポイントに換算した単位を設けているのも特徴で、春と秋の年2回のキャンペーンを実施し目標ポイントの獲得を目指すなど、気軽にチャレンジできる環境を整えています。昼休みのウォーキングやジョギングなどの運動だけでなく、拭き掃除や洗濯干しなど、自分の生活や体力・体調にあった身体活動(運動や家事、生活活動)に1人ひとりが取り組んでいます。

2011年度から進めてきた「健やか活動チャレンジ85」の目標値85SKを多くの従業員が達成したことから、2014年度は活動をレベルアップ。目標値を引き上げた「健やか活動プラス10」をスタートさせました。

→詳しくはP29をご参照ください

健やか活動

各職場で運動イベント 職場イベントで従業員の親睦も促進



▲ソフトボール大会に出場（茨城支店）

◀生駒山ハイキング（センコー情報システム株）

健やか活動では、従業員個々の取り組みだけでなく、各支店、各職場単位の活動も行っています。地域の「ソフトボール大会」や「マラソン大会」への参加、家族と一緒に楽しむ「ウォーキング大会」、社会貢献活動（清掃活動）と健やか活動を結びつけた「歩行清掃」、従業員が企画した「運動会」や「ヨガ教室」など、楽しみながら目標を達成する自主的なイベントや催しを全国各地で開催しています。

これら職場イベントは、運動習慣の定着を図るだけでなく、従業員の親睦、家族間の交流にもつながり、新たな企業活力を生み出す機会になっています。



▲第3回連田マラソンに参加（埼玉北支店、埼玉センコー運輸整備株）

健やか活動の発展

第1期／2008年4月～

『センコー健やか活動』

自分の健康に対する意識づけを行う。運動、食生活、禁煙など、日常的に取り組める目標を設定し7割以上の達成を目指す。

第2期／2011年4月～

『健やか活動チャレンジ85』

健康促進に効果的な「運動を習慣づける」ことに重点。運動や身体活動をポイント化（SK）し、85SK以上の達成を目指す。

第3期／2014年4月～

『健やか活動プラス10』

85SKを達成する従業員が増加したことから、目標を95SKに向上。さらにBMIなどの健康診断項目の改善も目標に盛り込む。

看護職による従業員の健康サポート体制

従業員の健康づくりに取り組む「健康推進室」（現・安全品質環境管理部 健康推進グループ）を2008年に設置。さらに事業所には「看護職（産業保健師・看護師）」を配置し、健康に関する面談を中心とした保健活動に取り組んでいます。現在15名（2015年5月）の看護職が、健康推進グループ、各職場責任者と連携を図りながら細やかなサポートを行っています。



VOICE

従業員の「健康」あつての企業。 看護職が担う役割は大きいと思います。

担当エリアの営業所を巡回し、従業員1人ひとりと面接して健康相談や指導を行っています。健康診断のデータを分析し、必要と判断すれば産業医面談などを促すのも看護職の業務です。また、健康診断の数字には現れてこない症状、例えば腰痛やメンタル面の問題などへのサポートも重要視しています。適切な指導を行うには、各職場の管理職との連携が不可欠で、巡回時や職場の安全衛生会議の場を活用し、会社と従業員の橋渡しができるよう努めています。

加齢とともにさまざまな健康障害が出てくるのは仕方のないことです。それらを上手くコントロールしながら、大病をしないで定年まで元気に勤め上げていただく。そのために何をすれば良いかを一緒に考えるスタンスをこれからも大切にしたいと思っています。「こんな変調があった」と、自分から相談に来る従業員も増えていきますので、健康への“意識”をさらに高められる取り組みを考え、実践していきたいと思っています。

北大阪支店 看護職
米谷 諒子

関西業務センター 看護職 胡内 紀子

特集

地域との共生

“ものづくり”への挑戦!

新しい視点で農業をとらえ直す。 センコー流「農業ビジネス」

「農業×物流」。従来の物流企業の枠組みを超える取り組みが始まっています。

自分たちが運ぶものを自分たちで作ろうという発想からスタートした「農業ビジネス」への挑戦は、全国各地に拡大。

新たな雇用を創出するなど、地域の振興・活性化にも貢献しています。

地域共生・雇用を生み出す （株）センコースクールファーム鳥取

センコーの農業ビジネスのきっかけとなったのが、2010年に特例子会社として設立した「（株）センコースクールファーム鳥取」です。ここでは小学校の廃校舎を活用し、地元の高齢者や障がい者の方を雇用した福祉型農業を展開しています。現在は水耕栽培でチンゲン菜、小松菜、ルッコラなどを育てるほか、校舎の一部を改装した専用施設で舞茸や椎茸を生産。収穫した野菜やキノコ類を、地元の青果市場、小売店、旅館、ホテルなどに出荷しています。

「新たな販路確保と安定生産が今後の課題。また、従業員がモチベーションをもって働ける環境づくりにも力を尽くしたい」と成田信和所長は話します。

地域社会に根ざした農業ビジネス

「（株）センコースクールファーム鳥取」では、タケノコの水煮加工業務も行っています。地元自治体とともに放置竹林の整備、里山の再生に取り組み、地元産タケノコの生産量向上に尽力。加工したタケノコは県の学校給食会に販売し、地産地消の学校給食で「食育」にも貢献しています。また後継者問題で廃業を考える梨農家と梨栽培に取り組みなど、地域の活性化に貢献できる農業ビジネスを展開しています。

「人工光型植物工場」プロジェクト拠点として

同施設では人工光型植物工場ビジネスの事業化に向けた取り組みも進行中です。蛍光灯やLEDを利用する栽培法は農薬などを使わずに高品質な農産物を安定的に収穫することが可能で、その事業化のためのさまざまなノウハウ蓄積を進めています。



▲学校給食に提供される地場タケノコ



▲トマト栽培に挑戦(写真は成田信和所長)



▲人工光型植物工場プロジェクトでのいちごの実験栽培

▼地元の高齢者や障がい者の方を雇用した福祉型農業として展開



▲小学校の廃校舎を再利用

物流を生み出す 農業ビジネスを全国で展開

宮崎県 青果物仲卸業、トマト栽培

センコー(株)延岡支店 / 宮崎センコーアポロ(株)

“ものづくり”への挑戦に加え、農業ビジネスを通じて地域貢献を図れることなどから、農業ビジネスにチャレンジしました。まずは販路を確保するため農産物の仲卸業を開始。その後、地元の農業法人と連携し、栽培技術の指導を受け2013年に高糖度トマト栽培のトライアル農園を開設。今後は仲卸業の拡大と農園の拡充に取り組み、将来は加工も含めた農業の6次産業化*を目指します。

*6次産業化とは

農山漁村の活性化のため、生産者などの第一次産業が食品加工・流通販売にも関わる経営形態。地域活性化の新しい取り組みとして注目されています。



▲高糖度トマトを栽培

千葉県 グラパラリーフ栽培

柏センコー運輸(株)

グラパラリーフは、美容と健康に良いとされる中南米原産の野菜。同社が新しいビジネスとして付加価値の高い農作物栽培に乗り出しました。2014年1月にビニールハウスを設置、4月に苗を植え始め、7月から出荷を始めました。

熊本県 茶葉栽培

南九州センコー(株)

熊本県の名産「お茶」の栽培農家が後継者不足などで減少していたことから、地域貢献の意味も込め茶葉栽培の取り組みを開始。熊本県、水俣市、農協などの協力を得て、農地を借り受け従業員総出で栽培環境を整備し、2014年春から茶葉の販売をスタートしました。



北海道 農産物の選別・物流事業にも参入

三協物流荷役(株) / 三協ロジスティクス(株)

農産物選別・物流の専門会社2社をグループに迎え、十勝帯広の農産物の選別、各種加工から輸送までを一貫して行う物流サービスを展開しています。北海道発の取り扱い物量が増えるスケールメリットを生かし、お客様のさらなる物流効率化にも取り組む考えです。



奥河内 くらまろの郷

農業をテーマに、地域振興を目指す

センコーは大阪府河内長野市に2014年11月にオープンした、食と農をテーマにした複合施設「奥河内 くらまろの郷」の施設運営に参画しています。同施設は農業の6次産業化に向けたプログラムも開講。当社は、この事業を通して農業ビジネスのノウハウを蓄積するとともに、地域貢献につなげていく考えです。

●食・農・人の交流拠点

JA大阪南直営の農産物直売所を併設し、河内長野産の食材を使用したイートイン工房（ベーカリー工房ほか）や地元特産品の物販コーナーを運営。また、近隣の里山を活用した農業・里山体験など、交流の場を提供しています。



国内外から信頼される、流通情報企業へ

私たちセンコーグループは、2016年に迎える創業100周年に向けた4カ年の中期経営計画を2013年度からスタートさせ、事業活動を通じて、すべてのステークホルダーの皆様から信頼される企業を目指しています。

社会の信頼を受けながら、お客様の調達から販売まで、情報を駆使する中で、物流・商流を含めて、グローバルに最適な流通サービスを提供していきます。



国内外から信頼される、流通情報企業へ。

2016年 創業100周年

流通情報企業とは、

お客様の調達から販売まで、情報を駆使する中、物流・商流を含めて、グローバルに最適な流通サービスを提供する企業です。

企業価値の向上に取り組んでいきます

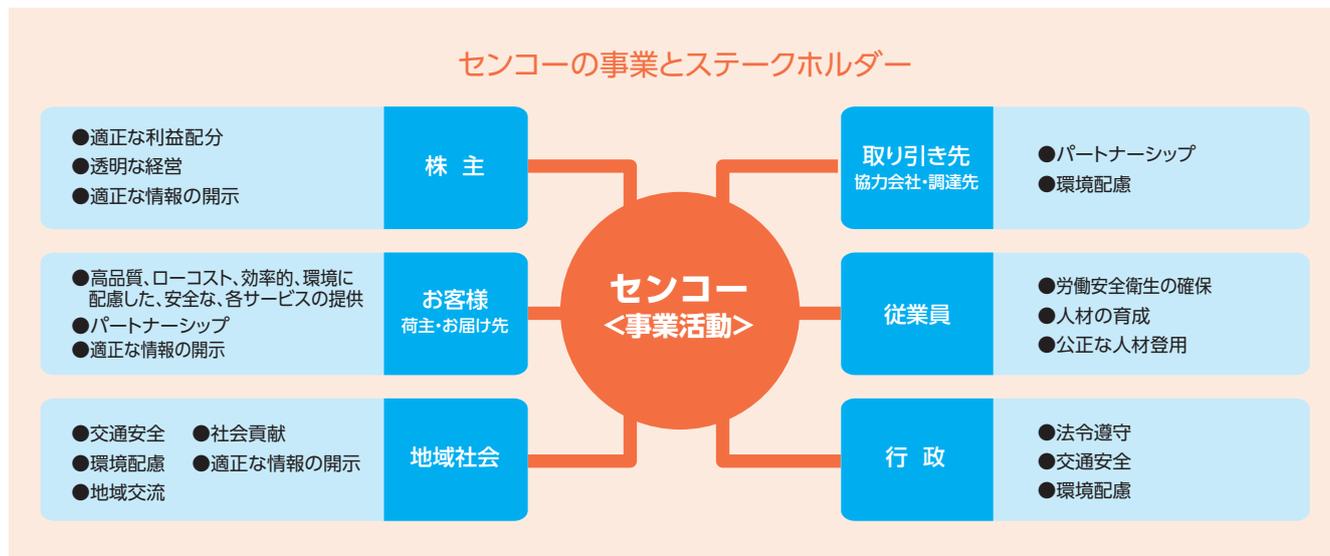
コーポレート・スローガン『Moving Global』を掲げ、高品質でコストパフォーマンスの高いサービスをグローバルに拡大していきます。5つのグループ中期経営方針に則し、物流・商流事業の業容拡大に努めるとともに、社会から信頼される企業活動によって企業価値の向上を図っていきます。また、「CSR(企業の社会的責任)経営」を経営方針の1つとして、コンプライアンスを重視した環境・安全・健康の取り組みを推進します。

グループ中期経営方針

- ① 総合・一貫したサービス提供に向け、物流・商流事業の業容を拡大するとともに、ものづくりへも挑戦する。
- ② お客様に一層信頼される、高品質でコストパフォーマンスの高いサービスを形成する。
- ③ グループ人材(グローバル人材、社内起業家含む)の育成・確保のため、人材教育・採用活動を強化する。
- ④ コンプライアンスを重視し、環境・安全・健康の先端企業を目指す。
- ⑤ 財務健全性の確保に重点を置いた財務施策を推進する。

CSR「企業の社会的責任」の強化に努めます

すべてのステークホルダーから信頼していただける企業風土を創造するために、センコーグループでは、「環境対応」、「安全活動」、「健康活動」をCSR経営の柱と位置づけた活動を推進しています。「中期経営計画」では、社会的ニーズに呼応する以下の取り組みに注力。CSR推進委員会を中心に、全従業員が高い意識を持って取り組むことで、事業を通じた社会貢献を果たしていきたいと考えています。

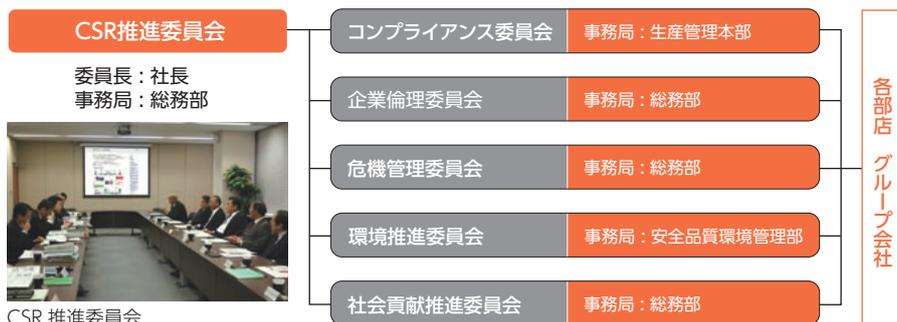


センコーの重要なCSR施策

<h2>環境対応 の推進</h2> <p>物流企業が環境に対して果たすべき役割は多大であると認識し、数値目標を掲げてCO₂削減と省エネルギー施策、グリーン物流に取り組み、環境先進企業を目指した「第5期 環境マスタープラン」を推進します。</p> <p style="text-align: center; background-color: white; color: #4CAF50; padding: 5px;">特集ページ および P17~22をご覧ください</p>	<h2>安全活動 の推進</h2> <p>「完全^{ゼロ}0災職場の確保」の実現に向けて、車両事故・労働災害の削減目標を設定し、安全マネジメントシステムのPDCAサイクルを通じて、リスクアセスメントを積極的に推進します。</p> <p style="text-align: center; background-color: white; color: #2196F3; padding: 5px;">特集ページ および P23~27をご覧ください</p>	<h2>健康活動 の推進</h2> <p>健康障害予防のための職場改善を進め、セルフケアなどの個人の健康増進の積極化と産業医や看護職の配置などの支援体制の充実で、健康リスクを低減させる管理体制の整備を推進します。</p> <p style="text-align: center; background-color: white; color: #9C27B0; padding: 5px;">特集ページ および P29~30をご覧ください</p>
---	--	--

CSR経営の推進体制

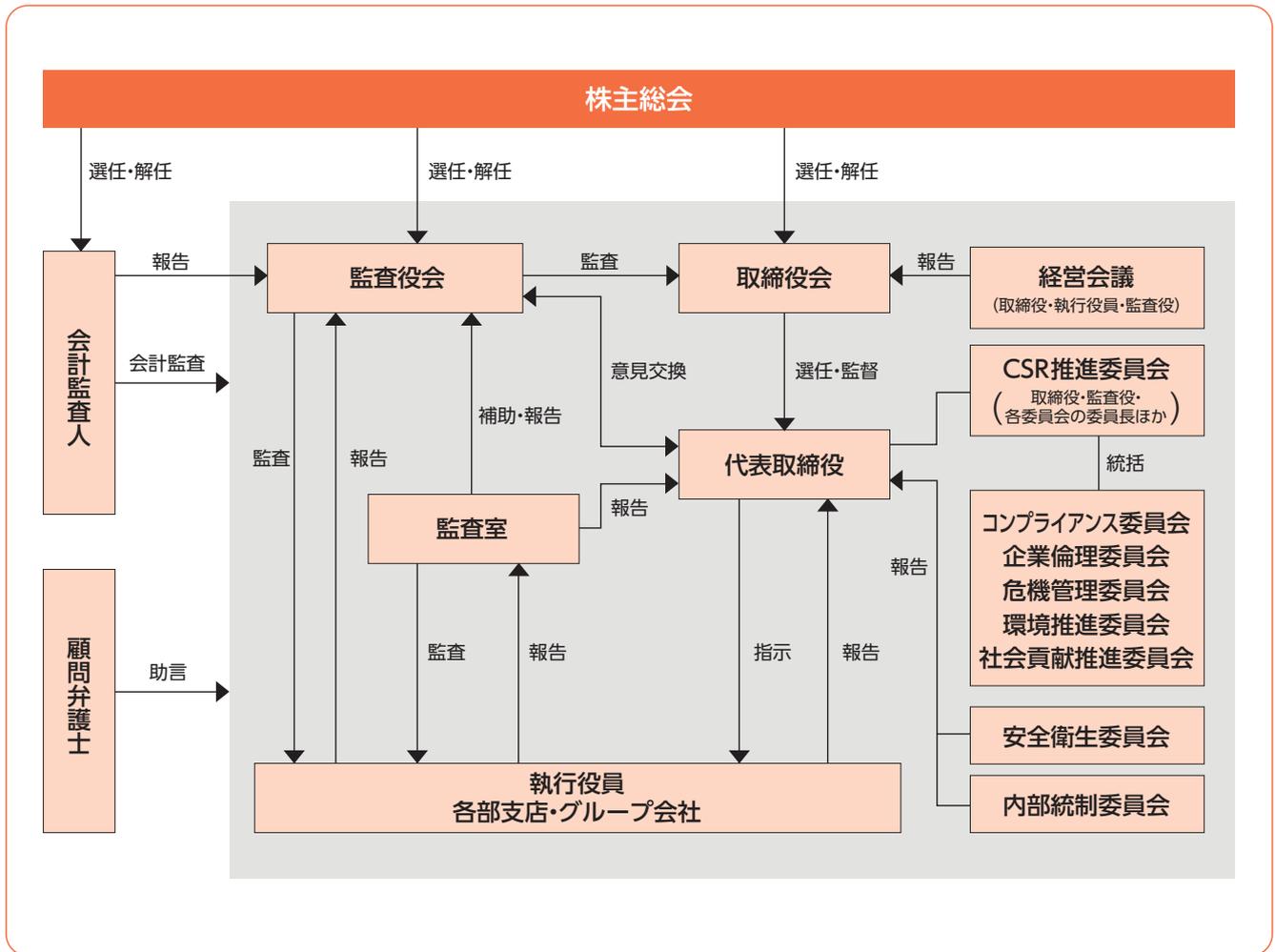
CSR推進委員会は「コンプライアンス」「企業倫理」「危機管理」「環境推進」「社会貢献推進」の各委員会で組織されています。社会的責任の領域を明確化し、活動の充実と深化を図っています。各委員会で立案された内容を審議して年度活動計画などを決定、また各委員会の指導を行う役割を果たしているのがCSR推進委員会です。



CSR 推進委員会

コーポレート・ガバナンスの考え方と体制

センコーグループは公共性の高い物流事業を行う企業として、コンプライアンス（法令遵守）に徹した事業活動こそが、企業の社会的責任を果たし、信頼を得ることにつながると考えます。そのため、コーポレート・ガバナンスを経営の最重要課題の1つに位置づけ、体制の強化に努めています。



[業務執行と監査・監督]

- ①当社の取締役会は、毎月1回以上開催しており、法令で定められた事項のほか、経営に関する重要な事項を決定するとともに、業務執行を監督する機関として位置づけています。また取締役、執行役員および重要な使用人が適切かつ効率的に職務を執行するために、取締役会規程および職務権限規程を定め、権限と責任を明確にするとともに、執行役員も出席する経営会議を設置し、業務執行状況の検証を行い、より透明度の高い経営の実現を図っています。
- ②当社はグループ全体のCSR（企業の社会的責任）経営を推進するため、コンプライアンス、企業倫理、危機管理、環境推進、社会貢献推進の各委員会とそれを統括するCSR推進委員会、安全衛生委員会、内部統制委員会を設置し、グループ全体のCSR経営体制を構築しています。
- ③監査役は、取締役会に出席し、取締役の業務執行を客観的立場から監視するとともに、監査室および会計監査人と連携し、子会社も含めたコンプライアンスの徹底と厳正な監査を実施しています。
- ④当社は会計監査人と会社法に基づく監査契約および金融商品取引法に基づく監査契約を締結し、適宜会計に関する指導を受けています。
- ⑤監査室は、リスク対策などの状況の検証、業務運営の状況把握とその改善、適切な業務運営体制の確保を目的として、当社および当子会社の内部監査を実施し、その結果を代表取締役および監査役へ報告しています。

コンプライアンス経営

誠実で公正な、法令を遵守し倫理にかなった事業活動を行う「コンプライアンス経営」は、企業が社会的責任を果たし、ステークホルダーの皆様から信頼を得るために最も基本的なことです。センコーグループでは、グループのすべての役員、従業員が社会的責任を深く理解し、企業活動のあらゆる場面において遵守すべき事項を「センコー企業行動規準」に定めています。

また、それを推進するために各委員会を設け、周知徹底と運用の充実を図っています。

さらに、社内通報制度として「企業倫理ヘルプライン」も設けています。

リスク管理体制の強化

事業運営上で遭遇するいろいろなリスクに対しては「リスクマネジメントシステム」を構築し、万一、緊急事態が発生した場合は人命優先、物的損害（経営損失）の軽減、業務の早期再開、社会的信用の維持、地域社会への支援と貢献の観点からの対応策を実施する体制を敷いています。

適切なコンプライアンス（法令遵守）と社会的責任を遂行するため、「リスク教本」の作成と周知徹底や、危険物を安全に輸送するためのドライバー訓練を定期的に行うなど、リスク低減に努めています。また大規模災害に備えた物流情報バックアップセンターを運用しています。

事故を模擬体験することで危険感受性を高める「ローリー輸送ドライバー訓練」

ケミカル物流事業ではタンクローリーを利用した液状の化学品の輸送を行っています。液体輸送に際して注意を要する作業の1つが、充填などの荷役作業です。輸送する液体は危険物も多く、万一漏えいや噴出が発生して作業員が液体を浴びると生命に関わる重大な事故になります。センコーではこのような事故を未然に防止するため、ローリー輸送ドライバー訓練を定期的に行っています。

訓練では、実際の作業手順のほかに、液体輸送の事故を疑似体験します。危険物の代わりに『水』を使い、誤った操作がどのような事故を引き起こすかということを感じることによって、危険に対する感受性を高め、万一の事故の発生時に被害を最低限に抑えるための知識・技術を習得しています。



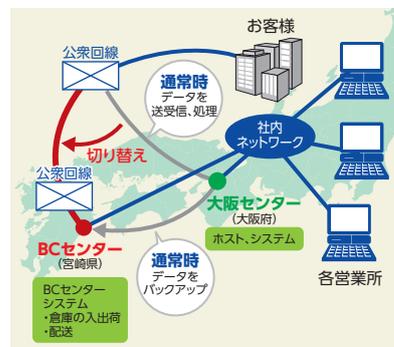
リスク教本の運用

「リスク教本」は、センコーの「企業行動憲章（基準）」を具体的な行動につなげるためのもので、法令などの解説、管理ポイント、他社事例、および過去に発生したリスク事例を簡潔にまとめています。事業運営に潜む危険（リスク）を理解し、危機（クライシス）に発展させることのないよう管理を徹底させ、またこの教本を活用した従業員などへのコンプライアンス教育も行っています。

お客様の事業活動を止めない「データバックアップセンター」

お客様の大切な物流情報をお預かりする企業として、情報資産の管理には万全を期しています。データバックアップセンターを活断層がないとされる宮崎県に開設したことで、震災などでシステム停止が発生した場合も、お客様の事業活動を止めることなく、リスクを最小化できます。

また、ホストマシンのある大阪のデータセンターと業務データの二重化を図り、災害リスクを回避しています。万一、大阪センターが被災し、システム停止した場合も、30分以内にバックアップセンターで物流システムを復旧できる体制を構築しています。



個人情報保護の取り組み

集荷、発送の依頼などでお客様の個人情報を預かることが多い物流企業にとって、個人情報の保護は企業義務です。センコーグループでは、プライバシーマーク^{*1}やISO27001^{**2}取得のほか、情報セキュリティポリシーを制定するなど、情報保護体制を構築しています。 ※1個人情報の保護を適切に行うことができる事業者として認定された場合に付与されるマーク ※2個人情報だけでなく組織が保有するさまざまな情報リスクを適切に管理するためのマネジメントシステムの国際規格

センコー環境方針

環境理念

次世代へと継承していくべき地球が、豊かな自然環境に恵まれ続けるために、私たちはすべての事業活動を通じて、自主的かつ積極的に省エネルギー・省資源をはじめとする環境対策に配慮し、環境の保全および継続的改善に取り組みます。

基本姿勢

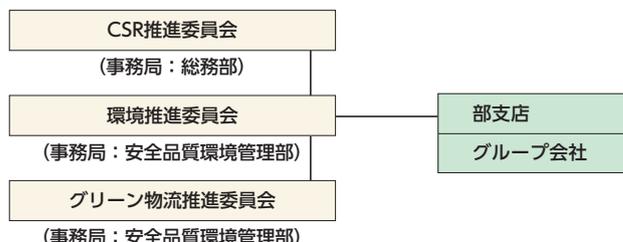
私たちセンコーグループは、地球環境問題を人類共通の重要課題ととらえ、「良き企業市民」として主体的で継続的な環境保全のための基本方針を定め、環境との調和を図りつつ、流通情報企業として社会に貢献します。

基本方針

1. 環境に関連する法規制、条例、協定を順守し、環境汚染の予防および環境保全に努めます。
2. 事業活動によって生じる環境への影響を調査・把握し、環境に負荷を与える要因の低減を継続的に推進します。
また、環境負荷を低減する新しい技術や設備などの導入を図ります。
3. あくなき創造性を発揮し、環境に貢献する高度なロジスティクスシステムを提案していきます。
4. この方針を達成するため、環境活動推進体制の整備、環境管理規程の整備、環境目標を設定し、推進します。
5. この方針を全従業員に周知するため、環境教育、啓発活動を実施するとともに、基本方針を社外に公開し、情報を提供します。

環境推進体制を整え、
グループ体での活動を推進

「環境推進委員会」で環境負荷低減課題を検討するとともに、「グリーン物流推進委員会」では、モーダルシフトを中心にお客様と一体となった環境負荷低減の取り組みを行い、環境に優しい物流サービスの実現を目指します。



環境マネジメントシステムの推進

環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証取得事業所をモデルに、独自の「センコー環境マネジメントシステム (SEMS)」を構築し展開しています。



改訂規格での認証は、定期審査で8事業所 (2015年4月現在) が継続認証されています。



ISO定期審査 静岡支店

グリーン経営認証の取得

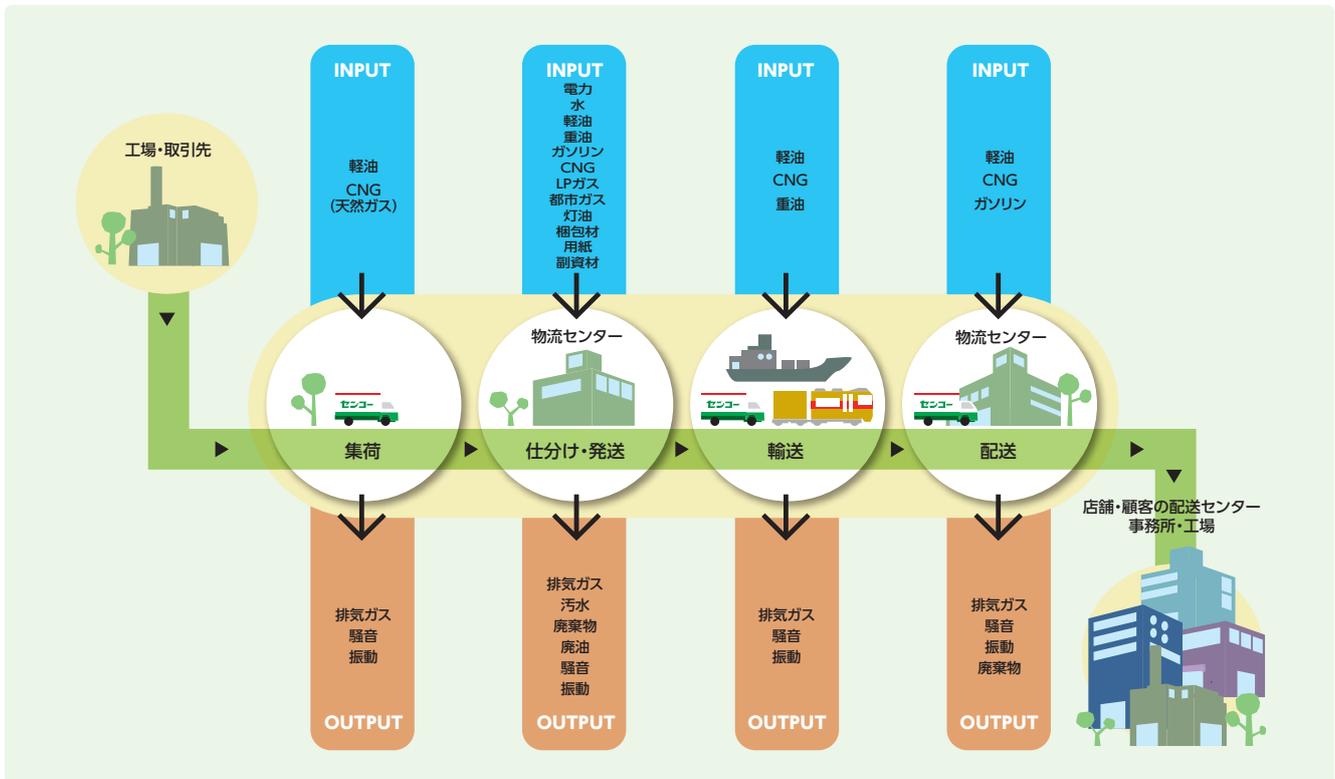
センコーは、国土交通省所管の「交通エコロジー・モビリティ財団」が推進する「グリーン経営認証」の取得を進めています。



グリーン経営認証を受けた
札幌センコー運輸㈱のトラック

環境影響の全体像

資源やエネルギーの使用量[インプット]と、CO₂や廃棄物などの発生量[アウトプット]を数値化し、事業活動全体を通して発生する環境負荷を把握。今後の取り組みにつなげることで、環境影響の低減に努めています。

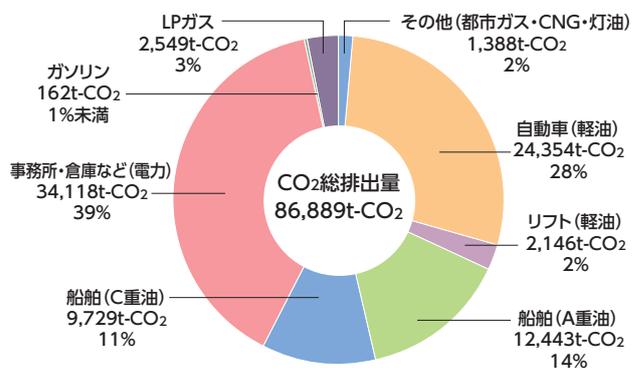


▶ 2014年度の環境負荷データ

INPUT	軽油	10,338 kℓ
	重油	7,834 kℓ
	電力	6,716万8,558 kWh
	CNG(天然ガス)	30.6千 m ³
	ガソリン	281 kℓ
	LPガス	860 t
	都市ガス	75.1千 m ³
	灯油	24.1 kℓ
OUTPUT	CO ₂ 排出量	86,889 t-CO ₂

CO₂排出係数は、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」ならびに「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令」に基づく2013年12月27日改正公表値による。

▶ CO₂排出量要因別内訳



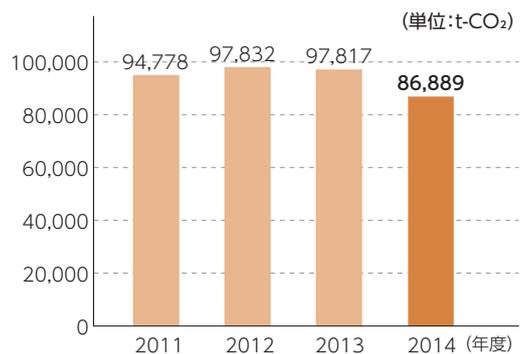
▶ CO₂排出状況について

センコーは、事業活動で使用している自動車や船舶、事業所、物流センターなどから排出される温室効果ガス(CO₂)排出量の把握と削減に努めています。

2014年度のCO₂排出量は86,889t-CO₂で、前年度に比べると10,928t-CO₂(11.2%)減少しました。2010年度に比べると12,289t-CO₂(12.4%)の減少です。

自動車や船舶などで使用する軽油や重油の燃焼に伴うCO₂排出量は11,803t-CO₂(24.2%)減少しましたが、使用電力は新規拠点開設などの事業拡大により、825t-CO₂(+2.5%)増加しました。

▶ 年間CO₂排出量の推移



中期経営計画 環境目標

“環境先進企業”を目指し、資源最小化&3Rを推進。社会に貢献する環境活動をさらに推し進めます。

第5期 環境マスタープラン

(2013~2016年度)

中期経営計画では、以下の環境目標を掲げて活動を推進しています。

基本的な考え方

“環境先進企業”セクターを目指して、新たな環境規制に対応できる活動、グループ全体としてのCO₂削減に関する活動、資源の最小限利用を目指した3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動、省エネルギー設備の積極的導入、環境活動の「見える化」を実践します。

2016年度までの環境目標 (2012年度比)

1 CO₂削減に関する活動

- 貨物輸送量(トンキロ)当たりの燃料使用量削減目標: 4%削減 (エコドライブシステムなど先端設備の導入を推進)
- 売上高当たりのエネルギー使用量削減目標: 4%削減 (電力デマンド、LEDなど環境設備導入推進、新拠点導入100%)

2 リデュースによる化石燃料使用削減

HV・ポスト新長期エコ車両(トラック)導入100%

3 廃棄物リサイクル向上

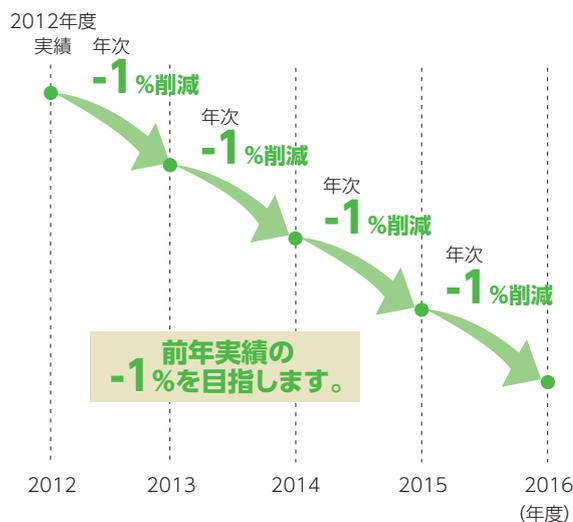
廃棄物排出総量4%削減、有価物リサイクル総量4%向上

4 社会に貢献する環境活動

グリーン物流提案件数目標: 年次75件
同業種・異業種の共同化推進

改正省エネ法に準じたCO₂削減

貨物輸送量(トンキロ)当たりの燃料使用量
および売上高当たりのエネルギー使用量の
削減目標(原単位)



取り組みの目標と結果

	環境取り組み	2014年度 目標	2014年度 結果
定量目標	CO ₂ 排出量の削減	2013年度比1%削減	2013年度比11.2%削減
	売上高(直営倉庫ほか)当たりのエネルギー使用量の削減	2013年度比1%削減	2013年度比7.0%削減
	廃棄物排出総量の削減	2013年度比1%削減	2013年度比8.0%削減
	リサイクルの推進	2013年度比1%向上	2013年度比2.9%向上
	グリーン物流の推進/ グリーン物流の提案	提案件数100件、成約件数50件 モーダルシフトを推進 幹線便を活用した他社貨物の共同化	提案件数140件、成約件数87件 輸送の効率化と環境負荷低減で物流連から「モーダルシフト優良事業者」大賞受賞 →詳しくはP5をご参照ください
その他 取り組み	エコカーの導入	HV・ポスト新長期エコ車両(トラック) 導入率100% ----- バッテリー式フォークリフト導入率90%	HV・ポスト新長期エコ車両(トラック) 導入率100% ----- バッテリー式フォークリフト導入率79%
	環境マネジメントシステムの 機能化	グリーン経営認証のグループ全体への拡大と ISO14001認証継続	グリーン経営認証継続 ISO14001認証継続
	社会貢献活動の推進	地域コミュニティと繋がりをもった環境活動推進	事業所周辺美化 延べ8,856名の参加 など

車両・船舶への取り組み

エコドライブシステムによる「なめらか運転」の推進

センコーグループはデジタル式運行記録計(エコドライブシステム)を活用し、トラックのエンジン回転数、急加速、急減速、アイドリングオーバーの新基準を設定しました。ドライバー自身が普段からこの基準を守り、なめらか運転を行うことで、燃費向上やCO₂排出量を抑制しています。運行管理者とドライバーが乗務後の点呼で、その日の運行結果を振り返り、なめらか運転の意識付けを行うことで、エコドライブと安全運行につなげています。また、ドライバー研修では安全運転だけでなく、エコドライブの講義・実習も行っています。



ドライバー研修ではエコドライブの実習を実施

CNG車の導入を推進

センコーグループでは、燃費が良く、CO₂削減につながる次世代エネルギーとして期待されているCNG(天然ガス)自動車を導入しています。2014年度は大型車を1台導入しました。

今後もハイブリッド車、CNG車に加えて、最新のトップランナー基準(商品化されている自動車のうち最も燃費性能が優れている自動車)のトラックへの切り替えを積極的に推進していきます。



中部輸送センターのCNG車

シップリサイクル条約への対応

船舶の解体・リサイクル作業に際して発生する労働災害や環境汚染への対策として、2009年に「シップリサイクル条約」(2009年の船舶の安全かつ環境上適正な再生利用のための香港国際条約)が採択されました。当社はこの採択を受け、重油タンカー「扇和丸」のインベントリ(条約に基づき作成される、船舶に使用されている有害物質などの一覧表)を、業界に先駆けて自主的に作成しました。今後もシップリサイクル条約への対応を通じ、社会や環境に配慮した船舶の運航を行います。



2014年11月に竣工した「扇和丸」

電気自動車の導入を推進

環境負荷低減の取り組みとして、2014年6月に排気ガスがなくCO₂が発生しない電気自動車を東京納品代行(株)で導入しました。これによりお客様の複数店舗間輸送に発生するCO₂を削減できました。今後も積極的に環境負荷低減につながる電気自動車を導入する計画です。



東京納品代行(株)の電気自動車



太陽光発電事業への参入

原子力発電が停止する中、再生可能エネルギーの普及促進を目指す法案(再生可能エネルギー特別措置法案、再生可能エネルギー買い取り法案)を受け、センコーは広大なPDセンターの屋根を利用した太陽光発電事業を2013年度から開始しました。

2014年度末時点では、全国11拠点で合計発電能力8.5MWの発電を行っています。2015年度にはさらに2拠点で発電を開始するとともに1拠点で太陽光発電装置を増設し、2015年度末には13拠点、10.4MWに増強する計画です。

▶ 2014年度までに稼働した発電所

年度	開設拠点数	拠点名	発電能力
2013年度	7拠点	浦和PDセンター、日向PDセンター、野田第2PDセンター など	5,285kW
2014年度	6拠点 (うち2拠点は2013年度開設拠点の増設)	日向PDセンター(増設)、狭山PDセンター、守山PDセンター3号倉庫 など	3,198kW
合計	11拠点		8,483kW

▶ 2015年度の稼働計画

稼働時期	拠点名	所在地	発電能力
2015年7月	北関東PDセンター(増設)	群馬県太田市	308kW
2015年9月	水島物流センター	岡山県倉敷市	998kW
2015年10月	仙台港PDセンター	仙台市宮城野区	622kW
合計			1,928kW



狭山PDセンター発電所

太陽光発電計測装置モニター画面



パワーコンディショナー装置



守山第3PDセンター発電所



省エネ型照明への転換を推進

消費電力の削減には、物流施設の照明をLEDに切り替えるなど設備投資による電力削減が必要です。グループ会社のセンコー商事(株)、(株)スマイル、センコープランテック(株)ではこれら設備の販売や設置工事なども行っており、グループ全体で、環境に対応した物流施設の普及に取り組んでいます。



廃棄物削減とリサイクルの推進

センコーでは、環境に優しい取り組みとして、事業所から発生する一般廃棄物、産業廃棄物の削減とリサイクルの取り組みを行っています。事業拡大する中で、廃棄物の分別徹底を図り、リサイクル量を増やしました。産業廃棄物処理量は、前年比8.0%削減と年間削減目標である1%削減を達成できました。また、リサイクル量は、対前年で2.9%増加しました。今後も廃棄物排出責任の観点から、実態把握とリサイクル活動を推進します。

▶ 廃棄物量とリサイクル量の推移



物流サービスでの取り組み

お客様と協働した「グリーン物流」を積極的に推進しています

センコーでは、物流事業を通じ、環境負荷の低減を目指すグリーン物流を計画的に進めています。

この取り組みは、お客様にご協力いただきながら、環境により優しい物流サービスを実現することで、大きな環境負荷低減の効果が期待できます。

[センコーの重点取り組みテーマ]

エコシップマーク、エコレールマークの取得

グリーン物流をさらに加速



エコシップマーク



センコーは海上輸送へのモーダルシフトを積極的に行っています。2014年度は、住宅資材の長距離輸送でフェリーを使用したモーダルシフトが評価され「平成26年度エコシップ・モーダルシフト事業『エコシップマーク』認定事業者」に選ばれました。

エコシップマークは、環境負荷の少ない海上輸送を一定の割合で利用している荷主企業や物流企業が使用を許されるマークで、海上輸送を通じて環境対策に貢献する企業の証です。



エコレールマーク

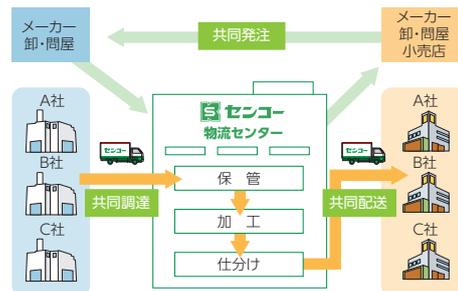


2015年2月、センコーはエコレールマークの協賛企業になりました。これは、エコレールマークの認定を受けた商品や企業の物流に関わる企業のうち、エコレールマークを社会に認知させるために適当と判断された企業が選ばれます。

2014年10月にセンコーグループとなった(株)ランテックも協賛企業として選ばれており、グループをあげて環境に優しい鉄道貨物輸送の推進に取り組んでいます。

共同配送

物流の効率化・エコ化をサポート



複数のお客様の荷物を共同で集荷・配達する「共同配送」システムを構築。高度な物流ICT(情報通信技術)と全国に展開する物流拠点を活かした、効率的でエコロジーな物流サービスを提供しています。

積載効率向上の設備導入

品質向上とコスト削減を実現



STパレット



フォールドデッキ
組み立てリフトで吊り上げれば簡単に脚が立ちます。

高さを変えることができるパレットを効率的に組み合わせることで、荷物の形状や行先別の荷量に応じた輸送・保管を行います。下部の荷重を減らすことで、品質とコストの問題を解決します。

お客様のニーズに応えるグリーン物流を推進します



安全品質環境管理部長 鷲田 正己

当社は物流環境貢献企業を目指して、省燃費、省電力などの活動に取り組み、CO₂排出量を削減しています。2014年度は、環境投資として、太陽光パネルの設置やLED照明への切り替えを進めてまいりました。今後も積極的な環境投資を実施してまいります。また、2015年度にメーカーが発売を予定している「大型トラックのCNG車」についても、積極的に導入していく考えです。

2015年度には国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)が開催され、温室効果ガス排出量削減の新しい枠組みについて国際交渉が行われる予定です。これを受けて荷主企業様でも環境への意識が高まると考えられ、当社としてもグリーン物流への切り替えなどお客様のニーズに応える物流提案を行うことで、お客様と一体となって環境活動に取り組んでまいります。

CSR VOICE

センコーグループ安全方針

安全方針

安全理念 「人間尊重」と「すべてに優先する安全」の精神のもと、『完全^{ゼロ}災害職場の確保』を実現する。

1. あらゆる事故・災害は防止することができ、また防止しなければならない。
2. 管理者は従業員の安全に対する責任を負う。
3. 全従業員が「あらゆる事故をなくするのだ」ということを信条にしなければならない。
4. 安全は高品質と高生産性を確保する。

基本姿勢

- ◎ 私たちセンコーグループは、物流事業の社会的使命を深く認識し、事業活動における安全確保が事業の根幹であることを、全従業員が正しく理解し、安全の向上に寄与する取り組みを推進する。
- ◎ 経営トップは、現場からトップまでが一体となって事業活動における安全の確保と安全性の向上に努めるよう積極的に主導する。
- ◎ 安全の基本は、健康な心身であることをセンコーグループに働く者1人ひとりが強く意識し、適切な健康管理を実践する。

重点施策

1. 関係法令を遵守し、社会的責任を果たす。
2. リスクアセスメントを徹底しあらゆる安全リスクを低減する。
3. 健康管理体制の充実と自主健康増進によって「健康障害」を防止する。
4. 安全衛生活動に関する情報について積極的に公表する。

安全中期目標(2013年度～2016年度)

● 車両事故度数率(道路上の事故)の2012年度比半減

2012年度実績度数率 0.44	➔	2016年度目標度数率 0.22
----------------------------	---	----------------------------

※過去5年間、国土交通省に報告が必要な有責事故の発生はありません。

● 労働災害度数率(休業4日以上)の2012年度比半減

2012年度実績度数率 1.35	➔	2016年度目標度数率 0.675
----------------------------	---	-----------------------------

【参考値】一般貨物自動車運送事業における
2012年度労働災害度数率実績 3.11

センコー流「安全マネジメントシステム」の運用と評価

貨物自動車運送事業法により、一定規模以上の運送事業者は、運輸安全マネジメントに基づいて事業を実施し、定期的に国の評価を受けなければなりません。センコーは、2011年11月に国土交通省から、運輸安全マネジメントが有効に機能しているとの評価を受けました。

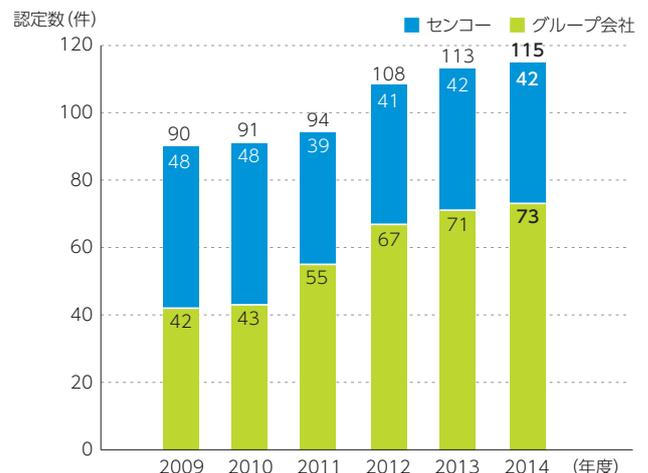
センコーの「安全マネジメントシステム」は、現場からリスクや課題を抽出し、組織のトップによるシステムの再構築および日常の安全活動の改善へとつなげる当社独自のものです。リスクマネジメントの考え方を取り入れ、トップダウンとボトムアップを融合させたマネジメントシステムによって、より現実に対応した安全活動と継続的な安全水準の向上に努めています。

安全性優良事業所認定の取得

安全マネジメントシステムに沿った安全活動の一環として取り組んでいるのが、全事業所での「安全性優良事業所認定」の取得です。

安全性優良事業所とは、社団法人全日本トラック協会(国土交通省指定)が事業者の「安全性に対する法令の遵守状況」「事故や違反の状況」「安全性に関する取り組みの積極性」を、評価基準に基づいて点数化し認定するものです。2015年1月1日現在、センコー(株)の申請対象事業所はすべて安全性優良事業所の認定を受けています。グループ全体では94%の事業所が認定を受けています。

▶ 安全性優良事業所認定数推移



安全管理の取り組み

センコーの安全管理体制

本社と現場が一体となった管理体制

センコーでは、本社と現場を結ぶ安全管理体制を構築しています。

全社を統括する全社総括安全衛生管理者の指揮の下、各部店に配置した総括安全衛生管理者が部店内組織の安全管理の全権を担っています。事故・災害・クレームが発生した場合には、事故災害報告基準に基づき迅速に報告が行われ、個々の事案に応じた対策を速やかに実行することができます。

全社総括安全衛生管理者が必要と判断した場合には、専門知識を有した本社安全スタッフを現地に派遣し、現場支援に当たるなど、本社と現場が一体となって、再発防止の徹底を図ります。

各事業所長は全員が安全管理者資格を取得

事業経営における「安全最優先」の重要性を認識し、安心・安全な職場環境を構築・維持するための配慮が事業所に十分に行き渡るよう、センコーでは、全事業所長が安全管理者資格を取得しています。

各所長は、事業所における実行責任者としてその「責任」と「権限」をもって、従業員の安心と安全を確保するために安全活動やリスクアセスメント活動のキーマンとして、高品質の物流サービスを提供できる「より安全な職場づくり」に日々、取り組んでいます。



リスクを管理できる職場形成

現場の第一線で活躍する安全担当者や運行管理者を対象に、安全な職場環境を構築するための研修会を行っています。研修会では、法令を遵守しドライバーの過労運転を防止する運行ダイヤの組み方の演習や、実際にあった過去の事象事例、日常業務におけるヒヤリハットを元にした事故発生原因、危険因子の追究とその対策の構築など実践的手法の習得に取り組んでいます。

また、荷役作業での危険を未然に防止し、その安全を確保するために全ての現場に荷役災害防止担当者を配置しています。



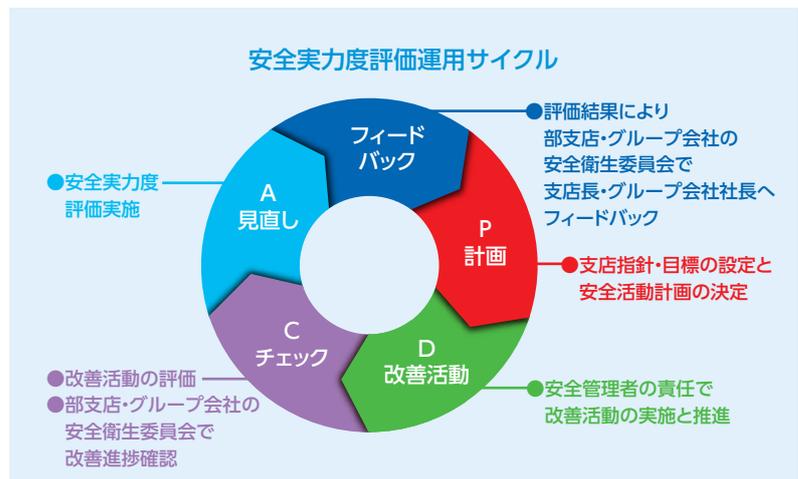
内部監査によるマネジメントレビュー

センコーでは、法令遵守の徹底を図るため「安全実力度評価」という内部監査を毎年実施しています。

この監査では、法令遵守はもちろんのこと、法令以上の先進的で高レベルな取り組みについては「見える化」を図り、全社展開を進めています。

「安全実力度評価」で指摘された改善項目は、定められた実施手順に従い改善を図ります。

マネジメントの基本である、PDCAサイクルが確実に回り、スパイラル化することで、法令を遵守し、より安全・安心な職場づくりと、社会からより高い信頼がいただける企業経営を目指しています。



「本質的改善」を推進するリスクアセスメント活動

職場の全域における災害の発生が予見される危険性または有害性を洗い出し、先手対策を講じることで未然に災害を防止する、あるいは災害時のダメージを最小限に抑えるための活動がリスクアセスメント活動です。

センコーでは、危険な業務を取り除く「本質的改善」を推進し、作業場に潜む危険を「許容可能な危険」まで、そのレベルを低減することを目標に、日々現場に密着した活動の推進に取り組んでいます。

2014年度は、全国6カ所で職長・班長を対象とした研修会を開催し、活動の浸透に取り組みました。また、各職場で実施したリスク低減策をイントラネット上に公開し「見える化」をすることで有効策の全社展開を推進しています。

安全と品質を支える現場力を磨くトレーナー制度と地区訓練

現場で働く従業員を対象にしたトレーナー※による「地区訓練」を毎年定期的で開催し、「強い現場」を支える技術力の向上と次世代への継承に取り組んでいます。

2014年度の地区訓練は協力会社も含め、ドライバー2,095名、オペレーター1,033名、計3,128名が受講しました。

センコーでは、お客様からお預かりした商品をお約束通りにお届けすることを使命とし、日々「現場力」の維持・向上に努めています。

※トレーナーとは、顧客ニーズを最優先に、センコーで独自に開発した行動規範（センコー流）を基に、現場でセンコーグループの従業員に対し指導・教育をするための教育を受けた指導員。

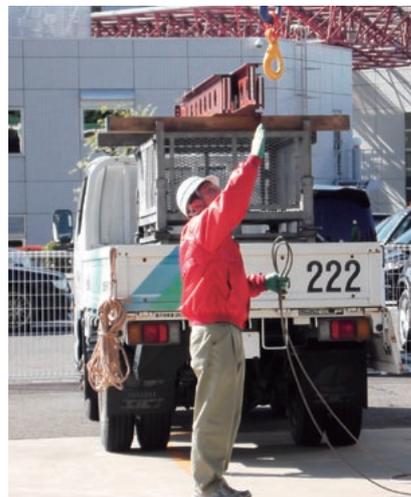


躯体輸送ドライバーのリーダー養成訓練を開催

センコーが得意とする住宅物流の中で、鉄骨や外壁などの躯体の輸送業務は、サイズも重量も大きく、1つのミスが作業員や周囲の人間の生命にも関わる大事故につながります。そこでセンコーでは、躯体を安全に輸送するための知識・技術を各職場でドライバーに指導するリーダーを任命し、リーダーの養成訓練を定期的に行っています。

訓練を行う研修室には「1人ひとりかけがえない人」と書かれた垂れ幕を掲げ、なにより人命と安全が第一であり、絶対に事故を起こしてはならないという強い意識付けを行います。訓練では実際に玉掛け作業（クレーンで重量物を持ち上げる作業）などを行い、職場のドライバーへの作業の教え方について指導員から講義を受けます。現場の事故防止に大切なことはワイヤーロープの掛け方など基本的なルールを徹底することです。訓練ではリーダーが各職場に戻った時にこのような指導ができるよう、効果的な指導法も学んでいます。

また、住宅資材の多くの輸送先が住宅地の建設現場であることから、近隣への配慮・マナー・挨拶を徹底することも指導内容に含まれており、住宅物流のプロを育成するための訓練となっています。



安全先進技術の検証と開発

安全先進技術「モービルアイシステム」の導入

「衝突軽減ブレーキ」や「ぶらつき防止システム」の装備法制化対象外の中型・小型トラックへの安全自動車先進技術の1つである「モービルアイシステム」を一部事業所にテスト導入しました。

「モービルアイシステム」は、搭載したドライブレコーダーからの情報を基に警報音を発することで危険回避を促すシステムです。前車との車間距離不足や車線逸脱だけでなく仮想バンパーを設定し、信号待ちや渋滞時の前車接触を未然に防止することができます。

検証の結果、危険を回避できる余裕を持った運転行動への変化が確認できました。これからも、安全走行を担保する安全技術の導入に積極的に取り組み、物流企業としての社会的責任を果たしていく考えです。

5つの警報でドライバーに危険を知らせる

- ① 前方車両衝突警報
- ② 歩行者警報
- ③ 車線逸脱警報
- ④ 車間距離警報
- ⑤ 仮想バンパー警報

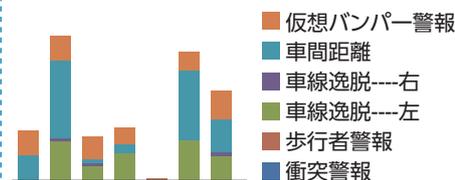


走行データ

■ 警報発生情報を管理者PCに送信

■ 車両ごとの警報発生実績が一覧表とグラフで表示される

- ① 前方車両衝突警報
- ② 歩行者警報
- ③ 車線逸脱警報
- ④ 車間距離警報
- ⑤ 仮想バンパー警報



■ 警報発生時の運転行動が簡単にドライブレコーダー映像で確認できる

● ドライブレコーダー映像の活用

1. 休憩室などに設置したディスプレイに危険場面を映し、動画KY(危険予知活動)を展開
2. 安全会議の事故事例や危険予知活動の題材として活用



■ モービルアイから取得した分析データによる教育指導の実施

安全活動と安全管理システムの融合を図っています。

CSR VOICE



安全品質環境管理部 安全管理グループ長 伊藤 隆巳

当社では従来から安全に関する内部監査(安全実力度評価)を実施していますが、2014年度からはIT化して内部監査業務を効率化するとともに、取り組み進捗の見える化を図り、改善取り組みのPDCAをより機能させ組織運営に反映できるよう取り組んでいます。今後は安全リスクアセスメントのシステムや次年度導入予定の危険品リスクアセスメントにも展開していきます。

また、このIT化の考え方、仕組みは安全担当者の日常の活動にも活用し、巡視記録、不安全箇所の写真記録など改善のビフォー・アフターの見える化に取り組んでいます。

また、従業員の拘束時間、総労働時間管理短縮にも注力し、健康に起因した事故を防止し、人の集まる企業を目指して取り組んでいます。

「外部団体」からの評価・表彰

高い技能と安全意識を擁し、信頼を得ているのがセンコーの安全品質です。2014年度も各方面から評価をいただきました。

団体表彰

■ 南九州センコー(株)

長年にわたりトラック運送事業の経営に尽力し、事業発展に寄与した功績が称えられ、熊本県トラック協会から永年継続企業表彰(2014/6/12)



■ センコーエーラインアマノ(株)

労働災害ゼロ継続で山形営業所が陸災防推薦で優良賞(2014/10/15)



■ 三協貨物(株) 平田支店

中国運輸局島根運輸支局から支局長表彰(2014/11/4)



■ センコー(株)南九州支店 宮崎営業所
■ 宮崎センコー運輸整備(株) 延岡営業所
■ センコープランテック(株)

九州運輸局から安全性優良事業所として表彰(2014/11/4)



個人表彰

■ センコー(株)大阪主管支店 大東センター
小林 一紀、峪口 和典

迅速な救急通報と適切な心肺蘇生法を実施し、大東四条賑消防組合から感謝状を受ける(2014/9/11)

→詳しくはP30をご参照ください



■ センコー(株) 京滋主管支店
守山PDセンター 瀧上 憲二

25年以上無事故・無違反の安全運転の功績が認められ、国土交通大臣から表彰(2014/10/27)



■ 南九州センコー(株) 港湾営業所
大園 雅志

20年近くにわたる無事故・無災害が評価され、優良フォークリフト等運転者として表彰(2014/11/19)



■ センコー(株) 大阪主管支店
大阪コンテナセンター 下地 平良

トラック運転者として34年間従事し、その間の無事故・無違反がたたえられ大阪府トラック協会から優秀運転者頭章(金十字章)を受ける(2015/2/13)



「社内」での
無事故無災害表彰

30年無災害達成記録者

- 埼玉主管支店 浦和PDセンター 田中 達男
- 京滋主管支店 水口営業所 植出 博
- 京滋東支店 湖東営業所 藤本 昌史



創立記念式典(大阪本社)で、左から藤本、植出、福田社長、田中

水島海運営業所
陸運係が連続無災害日数15,000日を達成

2014年11月2日に岡山主管支店の水島海運営業所・陸運係が1972年1月24日からの連続無災害日数15,000日を達成しました。

水島海運営業所・陸運係は、お客様の工場内で樹脂などの入出荷・包装業務を行っています。工場内の40℃を超える場所での作業や、真冬の屋外で冷たい水を扱うなど大変な業務ですが、年中無休で稼働されているお客様の工場を支えるため、全員が一丸となって安全第一で作業に取り組んでいます。

この記録樹立は、従業員1人ひとりが健康に留意しながら、日々の安全作業に取り組んだ結果です。今後も安全への意識を高めて、記録の継続に取り組んでいきます。



作業生産性を向上する 音声ピッキングシステム(音声物流システム)

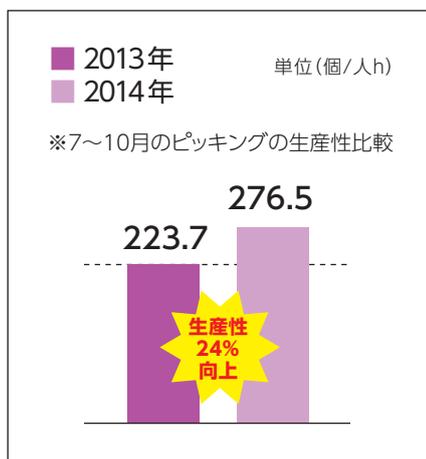
商品などのピッキング業務の効率化が求められる中、センコーでは省力・省人化を図る音声案内を使った仕組みを構築。茨城PDセンターに2014年7月から導入し、作業生産性を大きく向上しています。

先端技術を活用したこのシステムは、作業指示を「音声」で聞き、作業結果を「声」で返すことができ、従来の手持ちのリストやハンディターミナルを使ったピッキングでは考えられなかった「ハンズフリー」「アイズフリー」が可能です。お客様への業務の改善や生産性の向上につながり、今後も導入を進めていく考えです。

▶ 音声ピッキングシステムのメリット

- 伝票などのリストを持たずに作業ができるので両手(フリーハンド)でのピッキング作業が可能
- 作業者の負荷低減、スピードの向上、リスト確認ミスなどの減少
- 音声ガイダンスによる作業指示により物理的な作業工数が減り、業務効率化につながり、個人間の作業のパラツキも極小化され、標準化が図れる

▶ 音声ピッキングの生産性効果



住宅部材の物流をトータル管理する JIGS(住宅情報グローバルシステム)

全国の住宅設備メーカーの物流拠点からの調達(集荷)、建築現場への資材配送(供給)状況をトータルで物流コントロールすることを目的として開発されたのが住宅情報グローバルシステム「JIGS」です。

ドライバーが常時携帯するJIGSのスマートフォン端末で集荷・配達時の記録写真、配送指示の確認など、リアルタイムの「運行確認」や「配送指示」の伝達などが可能になります。また、配送車の運行状況や配達完了などの「業務進捗」を全国の現場からリアルタイムにJIGSに集約し、お客様へ“生きた物流情報”を提供することもできます。

住宅部材物流の課題を解決するJIGSは特許を取得。今後もお客様に有益な情報システムを開発・提供していきます。



「健やか活動」をレベルアップ。「健やか活動プラス10」を開始

従業員の健康づくりを応援し、生活習慣病を予防するために日常的に運動を習慣化させる「健やか活動チャレンジ85」を2011年度から実施してきました。この取り組みによって、多くの従業員が運動する習慣を身に付けてきたこともあり、2014年度から目標を“85SK”から“95SK”にレベルアップさせた「健やか活動プラス10」をスタートさせました。各職場でも、従業員が楽しく運動・健康増進できるようさまざまなイベントを企画し、実施しています。

「SK」とは 厚生労働省の健康づくりのための指針をもとに活動量を分かりやすくした当社独自の単位

- (例) 昼休み15分歩く = 0.5 SK
- ジョギング30分 = 2 SK
- 球技運動30分 = 1.5 SK
- 家事労働15分 = 0.25 SK

「箱根駅伝コース歩こう会」を開催

東京本社

東京本社のメンバーからなる「箱根駅伝コース歩こう会」が、箱根駅伝の往路約100kmを4月から11月まで5回に分けて歩きました。ウォーキングの参加者は45名で、うち皆勤賞で全区間を踏破したのは9名。第1回と第5回には福田社長も参加し、「従業員の健康は企業の成長にとって欠かせない。これからもさらなる健康づくりに励んで欲しい」とメッセージを送りました。



部門・会社の枠を超えたフットサル交流会

東京本社、東京主管支店、東東京支店、センコー商事(株)、(株)スマイル、センコーファッション物流(株)

東京本社や東京主管支店、グループ会社の事務所がある潮見SIFビルのメンバーを中心にフットサル交流会を行っています。これはグループ会社である(株)スマイルの従業員の呼びかけから始まったもので、今では月に1度、近隣の支店やグループ会社のメンバー40名ほどが参加するイベントになっています。部門・会社の枠を超えた交流で、参加メンバーの健康増進だけではなく、プライベート、仕事のコミュニケーションにもつながっています。



センコーグループオリジナルの腰痛予防体操

重い荷物を持ち上げる荷役作業や、長時間座った姿勢になる運転業務など、腰痛は物流業界の職業病ともいえます。この腰痛を未然に防ぐため、センコーはオリジナルの腰痛予防体操を考案しました。

フィットネスの専門家の監修で完成した体操の動作は15種類。職種に合わせて自分に合ったものを選んで体操できます。体操は簡単な動きで短時間に行えるものばかりで、休憩時間や業務の合間、待ち時間などちょっとした空き時間に手軽に行えるよう工夫されています。

この体操を紹介するステッカーやポスターなどを作成し、休憩室の掲示版やコピー機の横、トラックの車内などに掲示しています。無理なく継続的に従業員に行ってもらうことで、腰痛の罹患率が下がることを目指しています。

SENKO 腰痛予防体操



▶ 専門家を招き、メンタルヘルス研修を開催

従業員1人ひとりの心の健康にも目を向け、「予防対策」や「産業保健スタッフによる面談・復職に向けたチームでの支援」を充実させています。

2014年度は外部講師を招き、東京と名古屋の2カ所で管理職を対象とした研修を実施。すでに実施していた職場のメンタルヘルスチェックの結果を元に自部門のストレス状態を分析し、対策について検討しました。講義にはメンタルヘルス対策の重要性やメンタル不調者への対応の仕方など実践的な内容が含まれており、研修後すぐに自部門で新たな対策を実施するなど、非常に有意義な研修でした。



メンタルヘルス研修(東京)



メンタルヘルス研修(名古屋)

▶ 従業員とお客様の命を守る ～救命救急講習会を全国の事業所で開催～

心肺停止で倒れてから心肺蘇生を開始するまでの時間が大きく救命率に関わってくるため、救急隊の到着までに適切な心肺蘇生を実施することが大切です。そこで、センコーでは、従業員や来訪者の命を守るため、全国の事業所でAED(自動体外式除細動器)の設置と救命救急講習会の開催を進めています。

救命救急講習会は、傷病者の発見から救急隊の到着までをシミュレーションして行うもので、心臓マッサージや人工呼吸の実施方法、AEDの使用方法などを学びます。

当社は今後も従業員、来訪者と近隣の方の命を守るため、AEDの設置を進めるとともに講習会を通じて従業員が救命救急の知識を深められるよう取り組みます。



大阪主管支店の従業員が倒れた同僚の命を救う

2014年4月、大阪主管支店 大東センターで作業中の従業員が心肺停止状態で倒れるという事態が発生しました。現場に駆け付けた従業員が直ちに心臓マッサージなどを実施。その後、通報を受けた救急隊員の到着により一命を取り留めました。倒れた従業員は後遺症もなく、6月には職場に復帰することができ、従業員のご家族からも大変感謝されています。後日、救命を行った従業員に対し「迅速な通報と適切な心肺蘇生により、尊い人命が救われた」として大東四條駅消防組合から感謝状が贈呈されました。

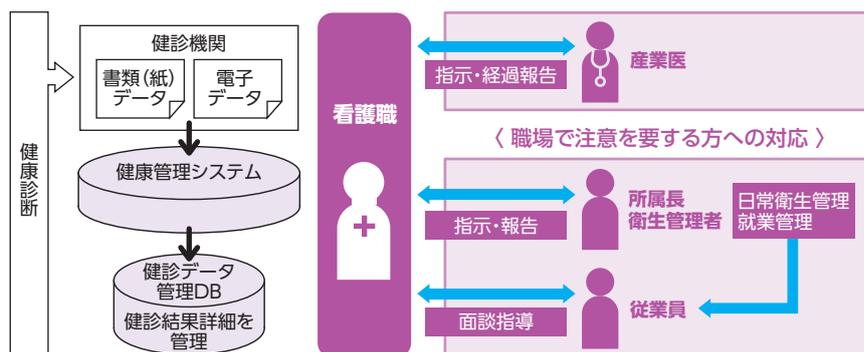


9月に行われた感謝状の贈呈式

▶ 健診機関の統一、健康管理システムを導入し、健康管理を一元化

2011年から健診機関の統一、健康管理システムの導入を進めています。これは、衛生管理業務・データの一元化を図ることで精度と効果の高い健康管理・支援を行い、健康リスクを低減させることが狙いです。

これらの一元化により、事務処理工数の低減のほか、看護職による健診データの管理と活用による各現場でのサポート体制の強化につながっています。



すべての従業員が快適に働けるダイバーシティワークの取り組み

センコーグループは、従業員1人ひとりが働きがいを感じる環境を醸成することで、個々の成長と活躍を促し、企業活力を向上させていきたいと考えています。その実現のために「ダイバーシティワーク推進部会」を設置し、すべての従業員が生涯“働きやすい”“働き続けられる”職場環境づくりを推進。ハード面とソフト面の両面での活動を進め、雇用環境の改善と向上に努めています。

基本的な考え方

- 1 男女という枠組みだけをとらえるのではなく、国籍や文化、ハンディーキャップなども含めたさまざまな価値観を持つ従業員が、お互いに尊重し合い、より一層活躍できるようにする
- 2 人生において、時々置かれた環境と価値観の変化に応じて、働き方を選択できるようにする

ダイバーシティワークを推進するための主な制度

育児	育児休業 ▶(センコー基準)子ども1人につき3年*
	短時間勤務制度(育児) ▶(センコー基準)子どもが小学校卒業まで*
	各種休暇 ◎マタニティ、出産、育児
介護・看護	介護休業
	短時間勤務制度(看護・介護)
	各種休暇
仕事との両立支援	ウェルカムバック制度 ◎育児などでいったん退職しても、復職できる制度(登録制)

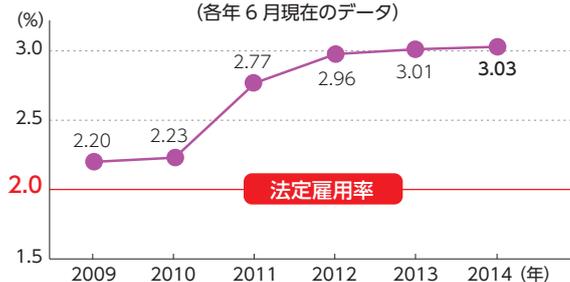
※センコー独自の基準として、法定の期間より長い期間にしています。

障がい者雇用を積極的に推進

センコーグループでは、(株)センコースクールファーム鳥取(特例子会社)の設立をはじめ障がい者雇用にも努めています。2014年度の雇用率は3.03%となり、障がい者の方が働きやすい環境や制度をさらに整えていきます。

また、センコーグループは東洋経済新報社が発行する「CSR企業総覧」2014年度掲載企業のうち2012年度の障がい者雇用率ランキングで16位に選ばれています。

▶ 障がい者雇用率の推移 (各年6月現在のデータ)



障がい者の職場体験、職場見学会を実施

茨城支店 茨城PDセンターでは、障がいを持つ方の社会進出の一歩として職場見学会や職場体験を行っています。

2014年度は2回の見学会と1回の職場体験を実施。3日間の職場体験では3名の方に段ボールを崩して緩衝材にする作業や商品へのラベル貼りの作業などを体験していただきました。茨城PDセンターでは3年前に2名の障がい者の方を雇用しており、非常に真面目な仕事ぶりで業務内容の幅も広がっていることから、今後も雇用の拡大を検討しています。



働きたいという想いを支援

大阪府若者サポートステーションに参加

センコーは、働くことに悩みを抱えている若者に対して専門的な相談や就労に向けた支援を行う機関である大阪府若者サポートステーションの企画した「企業交流会」に参加しています。働くことに悩みを抱えている若者を対象として、就労のきっかけ作りとなる一般企業との交流会が企画され、当社はその一社として参加しました。

▶ 大阪府若者サポートステーションのHP

“若者サポートステーション”は、厚生労働省が認定した全国の若者支援の実績やノウハウのあるNPO法人や会社などにより運営されています

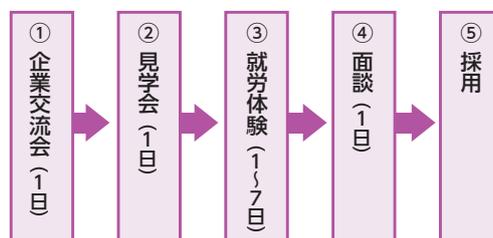


交流会では、20名の参加者に参加企業が会社説明を実施。その後、会社ごとに分かれて、若者から会社や物流に関する質問を受け、また働くことへの気構えなどいろいろな事項を確認し、若者の働きたいという意欲を確認しました。



企業交流会での会社説明の様子

▶ 採用までのフロー



交流会後、12名が当社の事業所見学会に参加。その中の8名が1週間の就労体験を行いました。就労体験では、OJT方式で働く体験や就労先の担当者と実習日報で「学んだこと、感じたこと」「本日の反省と感想」をやりとりするなど細やかにフォローをする体制を整えました。就労体験後、アンケートや就労の評価、参加者の希望を聞きながら、担当者との面談を経て、大阪主管支店管轄内の事業所に2名を採用しました。



就労体験の様子



「働く女性のためのセミナー」を開催

女性従業員が元気に働き続けられることを目的として、東京主管支店、東東京支店で働く女性従業員20名を対象に「働く女性のためのセミナー」を開催しました。

セミナーでは「女性特有の疾患」、「働く妊婦のための法律知識」「働く女性のためのキャリアサポート」などについて、看護職が講義を行った後、参加者はグループに分かれて職場で困っていることや問題解決に向けたディスカッションを行いました。参加者からは「同じような悩みを持つ女性従業員と交流ができた」、「女性従業員の活躍について意見交換することでモチベーションが上がった」などの感想がありました。

当社は今後もこのような取り組みを続け、女性従業員が活躍できる職場づくりを進めるとともに女性従業員のキャリアアップを促していく考えです。



その後の
レポート

「子ども交通安全教室」を、全国13カ所で開催

事業を通じて培ってきた交通安全の知識とノウハウを社会で役立てていくために、「子ども交通安全教室」を全国各地で開催しています。2014年度は13カ所で開催し、親子合わせて1,155名に参加いただきました。

子どもたちには、「横断歩道の渡り方」「車の死角に潜む危険性」「トラックの危険性」について、ゲームや紙芝居を交えながら楽しく学んでもらっています。地元の警察署や消防署の協力によるパトカーや消防車、トラックへの乗車体験は、貴重な体験として、毎回参加者の皆さんから好評をいただいています。

また、保護者の方向けにも、「シートベルトの重要性」「急発進・急ブレーキの危険性」「エアバックの作動実験」の体験や、「発煙筒の使用方法」を学んでもらうなど、親子で交通安全の知識を深めるために、各地で工夫しながら運営しています。

初開催となった千葉県の市原小学校では、全校生徒269名と教職員18名が参加し、大勢の方が安全について楽しく学びました。また、センコーロジスティクス・タイランドでは、豊田通商(株)様の子会社であるTTK ASIA TRANSPORT (THAILAND) CO.,LTD様 が初開催した子ども交通安全教室に協力し、タイの小学生80名に講習を行いました。

▶ 開催した部門

- ①東北主管支店、仙台北支店、東北センコー運輸(株)
- ②関東主管支店、関東業務センター、野田センコーロジサービス(株)
- ③茨城支店、関東センコー運輸(株)
- ④柏支店、柏センコー運輸(株)、S-TAFF(株)
- ⑤埼玉主管支店、埼玉北支店、埼玉南支店、埼玉センコー運輸整備(株)、センコー住宅物流(株)
- ⑥神奈川支店、南関東業務センター、神奈川センコー運輸(株)
- ⑦千葉支店
- ⑧静岡支店、富士センコー運輸(株)
- ⑨三重支店、中部業務センター、三重センコーロジ(株)、ロジ・ソリューション(株)
- ⑩京滋主管支店、京滋業務センター、京滋東支店、滋賀センコー運輸整備(株)
- ⑪大阪主管支店、関西業務センター、阪神支店、大阪センコー運輸(株)、奈良センコー物流(株)
- ⑫延岡支店、宮崎センコー運輸整備(株)、宮崎センコーアポロ(株)
- ⑬(株)クレフィール湖東



横断歩道の渡り方を学ぶ子どもたち(京滋主管支店)



市原小学校では全校生徒269名と、教職員18名が参加(千葉支店)

TOPICS

「子ども交通安全教室」のお土産製作が、障がい者の就労支援につながっています

教室に参加された子どもたちへのお土産を『特定非営利活動法人みやぎセルフ協働受注センター(宮城県仙台市)』に製作していただきました。同センターは、働く障がい者を支援するNPO法人で、「企業」と「東北エリアの障がい者就労支援事業所」とを繋ぐ役割をされています。

1人でも多くの障がいをお持ちの方の就労支援に繋がるよう、今後も障がい者就労支援事業所などとのコラボレーションを積極的に行っていきます。



カラフルなマグネットが完成しました

職場体験の受け入れ

未来の担い手となる子どもたちが、「働くこと」の喜びや厳しさを知ることを通して、「働くこと」への意欲を育てる。それを学ぶ場として、職場体験の受け入れを積極的に行っています。

日本物流団体連合会が主催する「第1回物流業界インターンシップ」に参加

学生に物流業界を広く理解してもらうため、(社)日本物流団体連合会と会員企業が共同でインターンシップを開催しました。

センコーでは東京主管支店 船橋営業所で、アパレルチェーン店様の商品の入出荷作業の実習を行いました。参加した学生からは「自分の身の回りの商品も物流の仕事があって手元に届いていることが実感できた」「今後の就職活動にとっても参考になった」との声があがりました。



船橋営業所でアパレル商品の入・出荷作業を体験した学生たち(前列3名)

▶ 職場体験を受け入れた部門

札幌センコー運輸(株)、東北主管支店、仙台北支店、埼玉主管支店、埼玉南支店、神奈川支店、センコーファッション物流(株)、阪神支店、大阪センコー運輸(株)、中四国ロジスティクス(株)、延岡支店、宮崎センコー運輸整備(株)、(株)クレフィール湖東、(株)スクールファーム鳥取



(株)クレフィール湖東でレストランの厨房業務を体験した学生たち

地域清掃活動

センコーの全国各営業所では、地域社会のコミュニケーションを大切に、事業所周辺の清掃活動にも積極的に取り組んでいます。2014年度は107事業所で延べ8,856名が参加し、清掃活動を実施しています。



本社地区(大阪)で実施した御堂筋周辺清掃活動

献血活動

センコーの各営業所では、献血活動に継続的に取り組んでいます。

2014年度は855名の参加があり、その中でも埼玉北支店は2008年度から年2回献血を推進している功績が認められ、上田清司埼玉県知事から感謝状をいただきました。



献血の様子(茨城支店)

東日本大震災 被災地の子どもたちに絵本をプレゼント



被災地の子どもたちに絵本を届けるクリスマスプロジェクトに日本フィランソロピー協会およびStone Soup Club(ストーン・スープ・クラブ)を通じて参加しました。

当社グループで集まった744冊の絵本は、主催団体を通じて、津波で絵本を失った被災地福島の子どもたちをはじめ、全国の被災地の子どもたちにプレゼントされました。

絵本を手にする福島の子どもたち(提供: NPO法人 地球の楽好)



お問い合わせ先

社長室 広報・IRグループ

〒531-6115

大阪市北区大淀中1-1-30-1500 梅田スカイビル タワーウエスト15F

TEL.06-6440-5156 FAX.06-6440-5148

URL <http://www.senko.co.jp>

ECO-PULP



UD
FONT

見やすく読み間違えにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

2015年6月発行